

洗心

題字は栗原正雄師—臨濟宗
妙心寺派宗務総長(福山市)

東京の寺で縁 古里との縁

東京都内の寺で、広島や島根の出身者による交流の輪が広がっている。ゆかりの講師を招いて法座を開いたり、地方の僧侶が出張法要を営んだり。交流会では郷里の話で盛り上がる。寺が古里との縁をつなぎ留める役割を果たしている。(久行大輝)

広島などの出身者 交流の輪

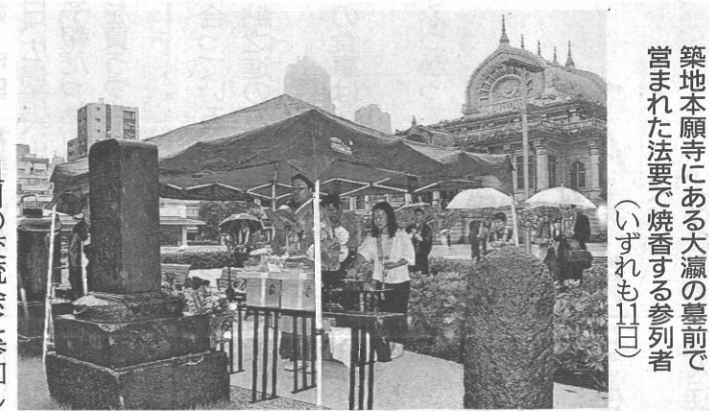
参加者は、境内で広島県安芸太田町出身の学僧大瀧(1759~1804年)の墓前法要に参列後、ホールに移動して純心寺(千葉県成田市)の曾我私章住職(65)と三上市出身の法話に耳を傾けた。曾我住職は、広島東洋カープの中村奨成捕手がドラフト指名の際に母親へ感謝の気持ちを示したエピソードなどを紹介しながら「阿弥陀様はどんな時も変わらぬお慈悲を届けてくださる。私たちの心温かい命の親様

法座や親睦会弾む会話

なのです」と説いた。続いて、もみじまんじゅうなどを食べながら「話し合い法座があり、参加者は広島弁で、近況や出身地の話で盛り上がった。呉市出身の藤井初美さん(71)とさいたま市



築地本願寺であった広島県出身者たちの交流会



築地本願寺にある大瀧の墓前で営まれた法要で焼香する参列者(いずれも11日)

他の宗派も

他の宗派も同様の取り組みを進める。島根県西部の51寺でつくる浄土宗石見教区も07年から「東京法要」を営む。増上寺(港区)に島根県の僧侶たちが出向き、檀家に来てもらう。始めた当初は参加者が100人程度だったが、最近では約200人に増えたという。

放てば手はみどり

文と絵 吉村昇洋

「坊主が酒を般若湯といふ」といふことは世間に流布しているが、鶏を「般若湯」といふことは本を読まないものは知らない。

これは、森鷗外の「鶏」にある一節である。このネタ元は、11世紀後半の中国北宋代に活躍した政治家であり詩人の蘇東坡が記した「東坡志林」にある。

「僧は酒を般若湯、魚を水桜花、鶏を鑽籠菜」と呼び、つまるところ「口を欺くだけで益はなく、世間では笑われている。不義を美文で言い繕う者も、これと何が異なるのか」とあり、戒律の厳しい中国の僧が、美しい表現を隠

お酒と仏教

般若湯と呼ばれる理由

れみのに、食の禁を破ることを痛烈に批判している。ちなみに、「椀は機織りのシャトルのことで、水の中を素早く動き回る魚を表現している。また、「鑽」は穿つ、「籠」は垣根を表し、垣根を突いて穴を掘ろうとする姿から鶏を連想させる。そこに、おのおの「花や菜」の字を加え、食べても良い物と詭弁を弄したわけである。



では般若湯はどうか。調べていくうちに、12世紀中国宋代の張邦基の記した「墨莊漫錄」に行き着いた。ただ、わたしではこの書の漢文を正確には訳せないため、東京・目黒区碑文谷の天台宗圓融寺住職・阿純さんにご協力頂いた。

「僧は酒を般若湯と呼ぶ。たまたま『釋氏會要』(沙門仁・編集 1011年)を読んだ時にこの説を知った。唐の長慶年間、旅の僧がある寺を訪れ、その浄人に酒を買いに行かせた。寺の僧はこれを見て、その粗暴な振る

明窓

「食事も要らん、薬も飲まん」と言うから心配しとるんよ」というメールがあった。私は友に「友の悲しみ」

「寂しさの深さを垣間見た気がして、熱いものが込み上げてくる。友は現実を受け入れ、一歩一歩前向きになったと安堵している。友に思いをはせながら、人のエンディングまで無事過ごせるように、朝晩、み仏に手を合わせる今日この頃である。(呉市・緒方淑子・主婦・77歳)

道しるべ

- ◆禅昌寺坐禅会 27日午後7時~29日午後1時半、広島市東区戸坂山根の同寺。
- ◆無名会仏教講座 28日午後6時~広島市東区東蟹屋町の妙覚寺。真光寺(広島市中区)・青原寺(広島市中区)からアピタルマ一期仏教からアピタルマ。
- ◆僧侶と自死遺族の分かちあい「サランの集い」 30日午後1時、広島市中区八丁堀の超覚寺。
- ◆ビバーラ安芸「いのちをみつめる研修会」 30日午後1時半、広島市中区寺町の本願寺広島別院。真宗学寮(広島市西区)・岡本法治教授の「往く道・還る道」仏教の生死観。千円。
- ◆真宗学寮広済会 7月1~3日午前9時~午後1時半(1日は午後のみ)、広島市西区南観音の同学寮。法光寺(広島市南区)・築田哲雄師の「なぜ今仏法が大事か」。
- ◆神心院アジア祭り 1日午前10時、呉市清水の同院。ボランティア報告やヨガ講座、柳家さん喬さんの寄席。昼食付きで中学生以上千円、小学生500円。先着70人。080823(2)1-4491。